



私の写真日記

撮影カメラ：エスピオほか

山上高人

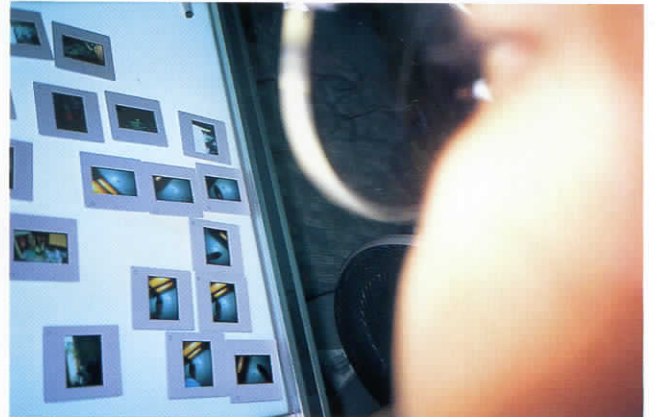
COMPACT WORKS GALLERY My Photo Diary by Takahito Yamanoue

●やまのうえたかひと
1948年、岡山県倉敷市生まれ。'94年に写真集「時間の外の時間」を発行。その後、個展「裏庭」('95年)「枯れる川」('95年)「私の居場所」('96年)を開催し、作品を発表。アラキー(荒木経惟)に憧れ、いつの日か天才と呼ばれることを夢見ている。

私は職場が自宅の隣にあるため、年中同じ敷地内で過ごしています。ですから写真を撮りに出かけることも少なく、生活の中で身の周りにカメラを向けることがよくあります。この写真をどうしようとか考えず、気が向いたときにただ撮っておきます。今回この作品を作ってみて、何気なく撮った平凡な写真でも、あとでこうして並べてみると結構いいストーリーになっているものだと感心しています。写真にでも撮らなければ気にとめない、記憶にも残らないような光景も、あとで見ると色々面白い意味を持っているもので、無意識にただ撮っておくことも写真を楽しむ方法の一つではないかと思っています。



わがファミリー。一人の母と四人の男の子。末っ子の四男はみんなに甘やかされながら育っている。父を除いてまだ誰も四男の本当のしたたかさには気が付いていない。



父は自分の撮った写真をたいそう気に入っている。だが、まわりの人はほめてはくれない。芸術家は孤独なのだ自分をなぐさめている。



先祖の隣では子供たちが友達を集めてファミコン大会をしている。おかげで先祖もおち眠れない。



私たちは先祖を大切にしている。先祖も私たちを見守ってくれている。



受験生の勉強机。絶望が山のように積まれている。



四男が左手の小指を骨折した。勉強には影響なく本人は暗い。一ヶ月して左手がなおったら今度は右手を骨折した。両親のあきれる前で本人も神妙な顔を見せるが、何かほくそえんでいるようにも見えたりする。



父の本当の趣味は釣りである。2年前釣った51センチのチヌが自慢だ。今までで一番大きな魚だが、このとき以来チヌは釣れていない。



裏の窓には夜な夜なヤモリがやって来る。彼はわが家に起こる一部始終を見て退屈しない。



知らぬ間に誰かがモモを持ってきてくれた。けんかにならないようにと頭の数だけ置いてある。夏のある日のことである。



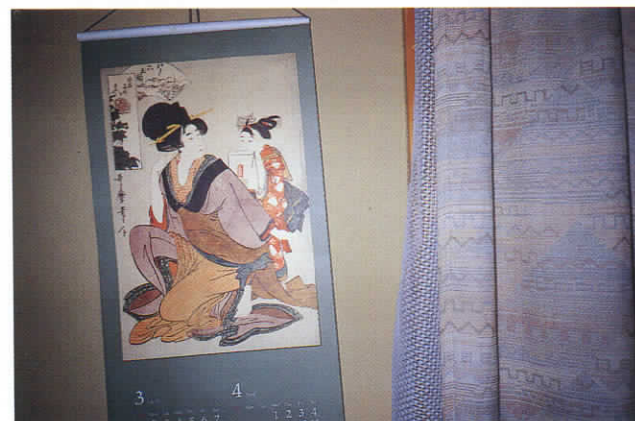
父はいつでも主人公のはずだ。気持ちだけでもしっかり持つのだと、ことあるごとに自分に言い聞かせている。



父はいつでもアラキー状態。誰も油断はできない。風呂上がりの母もあやういところで緊張している。



ベスト体重は65キロ。なのに「太っている」。この体重計はどうも気に入わない。



部屋には5年も前から同じカレンダーがかかっている。父も母も月日は必要ない。毎日同じことを繰り返しているだけだ。



子供たちはビートルズに熱中している。父や母もビートルズで育った。ビートルズは遺伝する。